

自然再生目標(修文中)

荒川太郎右衛門地区固有の多様な生き物を保全し、かつ、それらが生育・生息できる湿地環境を保全する。

- ・当初、「固有種」ということでしたが、生物の多様性という観点から考えた方が
良いとの意見から

過去に確認されていたような多様な生き物が住めるような多様な環境を再生する。

- ・砂漠に住むような生物が生息する環境ではなく、この場所に適した生物がす
む環境という意味である。1番目の内容と重複する部分があるために、まとめ
る必要がある

現況の湿地環境を保全するのにあたって、荒川本川水、雨水、湧水等の自然な水を用い、開放水面を拡大するものとする。

- ・開放水面の面積は大きい方が良いとの意見が各グループから出されてい
た。

周辺地区も含めたエコロジカルネットワークの核となる自然再生地とする。

- ・周辺地区にも様々な計画があるがそれらの計画の核となる場所にする。

約70年前の蛇行形状が今なお変わらず存在する、歴史的に貴重な荒川旧流路の保全を行う。

- ・旧流路を自然再生するという考え方から、この形状を残していこうという意味
で。

治水については別文

- ・「洪水にも強い河川整備」という文言については、河川事業ということからは
考える必要があるが、この文章は、自然再生の目標としてはそぐわない。自
然再生の目標として合う形の文章にする必要がある。

事業の概要について

事業の概要については、事務局案でおおむね了解。

池の接続については、さらに検討する

- ・各池ごとに異なる種があり、安易に接続して良いのかとの意見がいくつかの
グループから出されており、検討が必要である。

湿地の拡大(民地の協力をいただくことも検討)

- ・市野川からの導水浄化施設予定地、旧モトクロス場、周辺の民地についても
湿地化を検討する。湿地を拡大してより上位の生物が生息できる環境にす
る。

利用のあり方、人とのかかわり方のルール作り

- ・狩猟、ゴミや騒音に対する問題に対するルール作りについても事業の中に組
み込む必要がある。

上池地区の旧モトクロス場も湿地環境の対象とする。